

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2011年12月10日）

雪で薄ら寒い早朝、身を縮めながら集合場所に行きました。すぐに目に飛び込んできたのは、バッチリ装備した高橋さんと神さんの笑顔でした。今回は前週に続き、東日本大震災論・野田村復興支援特別講義2回目の開催です。しかし同時に、今回は側溝の清掃作業の要請があり、事前に連絡が回っていました。高橋さんと神さんは、久しぶりに作業モードの完全武装、なんだかすでに朝から力がみなぎっていました。

参加者数は63名で、うちわけは教員3名、学生51名、市民9名でした。バス一台は、補助席もすべて使ってギュウギュウの満員、もう一台の李さん運転のバンも一緒に、少し遅れて出発しました。バスには運転手さんはもちろんのこと、今回も女性の乗務員の方が乗っておられ、たいへんプロフェッショナルなお仕事と気づかいをされるので、忘れ者の私はいつも感心します。しかし、大型バスが満員というのはなかなかたいへんなもので、バス酔いした学生にバンの方へ移ってもらったりしながら、ようやく到着しました。

今回は、①野田村復興支援特別講義への参加（39名）、②弘前市内の小学生が作った弘前を紹介するパンフレットを仮設住宅に届ける（9名）、③側溝の清掃作業（15名）、の大きく3つの班に分かれての活動でした。



出発時の青森の雪はどこへやら、晴天の岩手にて



八戸工業高等専門学校の河村先生のお話

野田村復興支援特別授業は、前回とほぼ同じ形式と内容で、3つの講義と足湯の実習です。最初に、大阪大学の渥美先生より災害ボランティアの16年間のお話、次に、野田村出身のおなじみ貫牛さんから、野田村の概要と村づくりの基礎になった活動についてのお話、そして、八戸工業高等専門学校の河村先生より、まちづくりのご経験からお話をいただきました。河村先生からは、まちづくり・まち育てとは何かについての説明ののち、学生が八戸のまちを活用・活性化する「学生まち活プロジェクト」、野田村で7月末に行われた「シャレット・ワークショップ」の紹介がありました。地元の文脈をしっかりとみること、つながりを作ること、地元のニーズに対応すること、外からかかわるまちづくりは「おせ

っかい」であることを自覚し気をつけること、でもゆっくり時間を共有し関わること、などの、私たちの活動にとって、大切な指摘がありました。

あわただしい昼食をはさんで、13時をまわってから、再び活動開始です。講義の方は、京都大学の永田先生による足湯講習会が開かれました。えぼし荘の温泉水を使ったぜいたくな講習会です。私もこれまで関西の学生さんがイベント等で足湯を行っているのを傍目にみていたのですが、あらためて方法や意義が分かりました。椅子に座って足湯を受ける側とやる側のサンプルにさせてもらったのですが、足はほっこり、手のマッサージによる肌の暖かさの実感、そして下から見上げられてリラックスして話をしやすい感じが、新鮮でした。水もタオルもどんどん変える、肩のマッサージはしない、など細やかな配慮もあり、とてもよくできているなあ実感しました。私たちの活動でも取り入れることができそうです。残念ながら、野田村の方をお迎えすることにはならなかったのですが、学生同士、足湯で行う手のマッサージの実習をしたりしました。

そういえば、前回も行った「訪問マナー教室」を今回も行う予定だったのですが、作道さんともども、すっかり忘れていました。準備や段取りがバタバタしてしまい、いろいろと行き届かなかった点があったのは、大いに反省です。複数のことを同時進行する場合はとくに、事前の段取りの確認をしっかりせねば、と心に戒めました。



足湯を実習中



もみもみ、お互いに手のマッサージ

側溝の清掃チームの作業は、狭くて深い側溝で、しかも力が必要で、たいへんだっただようです。「泥上げを手伝ったのですが、とてもたいへんでした。復興はたいへんだなと身をもって感じました。」「寒くて土が凍っていて、スコップが入っていかないということで、ツルハシを使った作業で、学生はつらかったかもしれません」と感想がありました。また、講義に関しては、「野田村の方々と交流ができなかったのが残念でしたが、講義や足湯は勉強になることが多かったなので、次の機会に生かしたと思います」という感想が多かったです。また、「渥美先生のお話の中で被災者に寄り添うことが大切だとお話されました。これからボランティアをやっていく上でとても良いお話で、次からも機会があれば

参加したいです」。仮設住宅で弘前のパンフレットを配った学生からは、「この間作った松ぼっくりツリーをととても気に入っているということで、玄関に飾ってくれている人が結構いらしゃったので、とてもうれしかったです。今後も野田村の人が喜んでくれることができたらなと思いました」という感想がありました。私も小学生が作ったという弘前を紹介するパンフレットを見せてもらったのですが、手作りで全部違い、いろいろな写真や切り抜きが貼られていて、アップルパイを重点的に紹介するもの、お城を紹介するものなど、バラエティに富んだとてもステキなパンフレットでした。野田村の人々に弘前を紹介したい、という小学生の気持ちに満ちあふれていました。

この日は、弘前へと帰るバスを見送って、教員と学生事務局の一部はそのまま野田村に残りました。その日の夜は、仮設住宅に入居されている住民のみなさんの交流会に、私たちも参加させていただきました。こうした形で住民の方と場を共有させていただくのは私は初めてだったので、とても楽しく、またいろいろな出会いがあり、たいへん感慨深い夜でした。翌日は、野田中学校の仮設住宅でのクリスマスイベントのお手伝いをしたり、住民の方にお話を聞いたりしました。

全般的に冷たい風が吹き、予想以上に寒かったので、次からの活動はしっかり着込んでくるように、参加者に徹底する必要があるそうです。しかし、こうした冬の外に出づらい時期であるからこそ、私たちが個別訪問を行ったり活動をしたりする意義があるのだと、あらためて思った今回の活動でした。

山口恵子（人文学部教員）